

## 2021年度ほっとスペース八王子活動総括

【コロナとの闘い】 新型コロナウイルスが一昨日から変異を繰り返しながら世界中で猛威をふるい、人類は、人類史上かつてない危機にさらされ続けている状況にあります。そのことは、私たち精神障害者をはじめとした障害者や生活弱者の生活に多大な影響を与えています。

そして私たちの敵はウイルスそのものだけでなく不安やおそれ、差別・偏見とも引き続き闘わなければなりません。

コロナとのたたかいでは、今回二人の感染者が出ましたが、感染経路はおそらく外だと思われます。

1月早々にある職員の家族に熱を出した方がいて、直ぐに、PCR検査を受けてもらい、ほっとスペース八王子の濃厚接触者という定義に括られる方にもPCR検査を受けてもらい、PCR検査キットを取り寄せ、会員にも検査をしました。

全て陰性で事なきを得ましたが、この経験が2月の感染者2名発見された際、感染拡大予防に役立ちました。自主的に閉所し、感染がほっとスペース八王子内に広がらないように対応が取れました。

アルコール消毒、次亜塩素酸ナトリウム水溶液消毒は開所前作業担当職員が徹底し、入所の際には検温、手のアルコール消毒を徹底してきましたが、一部手の消毒、開所前消毒で不徹底な部分があるのは今後職員あるいは職員間のチェックも行っていきたいと思っています。

なお、現在はPCR検査も週2回実施し、ほっとスペース八王子内での感染を防止すべく対応しています。

毎週の全体ミーティングで確認しているように、ほっとで感染者を出さないように、スタッフも会員も感染予防に懸命に取り組まなければなりません。また、現在コロナ感染を恐れて通所できない仲間に対する在宅支援を実施していますが、そのような方に対する、アウトリーチも職員やボランティア任せにせず、会員も主体的に関わっていきましょう。また、私たちほっとスペース八王子として忘れてはいけないことはコロナウイルスに関係なく外出できない方たちのことです。このような、閉じこもり、引きこもりの仲間に対する支援をまた重要です。コロナ事態収束後もこのようなほっとスペース八王子に来れない仲間に対するケアを重視し、スタッフ、ボランティア、会員が一丸となって働きかけることで、コロナ情勢収束後には晴れてほっとに来れる仲間をふやしていきましょう。

### 【ほっとニュース】

・ほっとニュースの発行は、当事者の権利擁護、会員拡大、全国に散在する孤立した仲間を勇気づける大切な役割があります。

現在までニュースが発行できずに残念です。会員拡大の大きな媒体ですし、コロナ禍で孤立している仲間への激励の通信が出せないことは痛恨の極みです。従来のようにページ数がたくさんでなくても数ページ、A3版4ページでも良いので発行していきたいと思っています。民間の作業所が雨後の筍のように林立し、ほっとスペース八王子の存在が霞んでしまった感があります。SNSでほっとスペース八王子の存在をアピールしても認知されているのかという不安があります。

紙の媒体、活字の媒体は古典的ですが、一番目に入りやすい媒体です。各精神病院、精神科クリニック、各作業所、グループホームに送付し、多くの仲間の目に触れる状況を作り出さなくてはならないと思っています。

意義ある、意味のある媒体であれば、工賃作業でなくても、ボランティアの仲間が手弁当で丁合のお手伝いも可能だと思います。そのような内容の「ほっと」ニュースを発行していきたいと思っています。

さらに、ニュースの発行は寄付金の呼びかけにも結び付きます。ほっとスペース八王子の生き生きとした活動

報告が支援者、支持者に伝われば寄付金もおのずと増えていきます。新規車両購入、新規印刷機購入の際の自己資金ともなりますので、ニュース活動は欠かすことができません。

### 【プログラム】

- ・魅力あるプログラムを、会員が自ら作って運営しよう。
- ・プログラム充実のために、よい講師を探そう。
- ・職員も責任を持ってプログラムに参加しよう。

昨年度は自主的に会員がプログラムを開発し、作って運営しようと呼びかけましたが、会員制であることの意味がまだまだ浸透していないのか、会員による自主的な運営の意味が周知徹底されていないと思いました。

何故、プログラムが必要なのか、プログラムでなくても良いのですが、各会員の目標達成するにあたって、何が必要か会員からの声が上がらなければ、ほっとスペース八王子の存在意味もかすんできます。会員制を採用している意味も会員には自覚的にならないのもそこに原因があると思います。

いままで各会員の自信獲得、自主性、主体性獲得に効果があった従来のプログラムを活用し、各会員のほっとスペース八王子の利用目標を達成するためにプログラムをどう生かすか、という視点で実施していきたいと思えます。

### 【当事者運営】

全体ミーティングに各会員がもっと積極的に参加するようにしなきゃという総括です。

さんきゅうハウスの方々の応援が無くなると、潮が引いたようにさみしいプログラム参加状況でした。ほっとスペース八王子を何のために利用しているのかの目標設定が各会員に確立していないという思いをしました。会員制以前の問題だという思いです。

自主運営は自分がしたいことをやるというのが基本ですが、そのしたいことを通して自分自身の自信に結びつく、他の会員への波及効果＝仲間意識の育成、差別社会への啓蒙・啓発効果もあれば最高です。

### 【会員拡大】

SNS を通しての会員拡大は未だ結びついてはいないけど、ほっとスペース八王子の催し（精神国賠訴訟傍聴行動、松沢病院見学会、ハンセン病見学会、高尾山登山、患者会等）が徐々に伝わり、小峰さんなどの新しい会員の獲得に結び付いています。

小峰さんの活動は八王子 PSW 会での当事者の参加問題で一石を投ずることになり、八王子の PSW に対して、ほっとスペース八王子への信頼を獲得することにつながりました。これは会員拡大への喜ばしい展望が切り開かれたものと思います。

「ほっと」ニュースの発行は実現できていなくて、会員拡大に結び付いていません。今年度はぜひ実現に結び付けて、孤立した仲間ほっとスペース八王子の思いを伝え、情報交換、情報伝達に役に立てればと思います。

街頭での宣伝をリーフレット配布で行いました。真夏の暑い中では市内の各市民センターにリーフレットを置いてもらい、宣伝しましたが、毎月の更新ができていません。リーフレットも更新して、各市民センターに置いていただくように努めたいと思います。

また、街頭宣伝でも皆さんが参加して、賑々しく行いたいと思います。こういう人たちがほっとスペース八王子で活動しているのだと分かる顔が見える宣伝行為は大切な活動だと思います。

それから、新たな形としては街の方たちから病について相談される場面も多々見受けられ、宣伝だけでなくそのような方たちの相談に応じる青空相談室も併設して活動していきたいと思えます。

### 【差別とのたたかい】

面会活動は月一回実施できていたと思います。しかし、なかなか通所に結び付かず、面会者に会えないこともありました。しかし、孤立していることには変わらないので、今後も継続して面会行動を行います。

また、zoomを活用したりして支援していくことも必要と思います。

今年度は被逮捕者もいなくて、平穏に過ごすことができましたが、私たちの知らないところでは多くの仲間が逮捕され、また医療観察法など適用されて、長期入院の憂き目に遭っていることを思うと居ても立ってもいません。

昨年度はアパートでのトラブルは生じていませんが、不寛容な時代となっている今日、しっかりとアンテナを張って仲間が困っている状況に手を差し伸べる思いは維持していかなければなりません。

また、アパート、地域でのトラブルに対して一人に対応するのは困難な場合、直ぐにでもほっとスペース八王子が対応すべく駆けつけますが、基本は会員自身が対応できる力を徐々に身に付けていくようなイメージ遊びなどの主体性を獲得できるプログラムを実施して、今後に備えたいと思います。

町内会との協力。大家さんや町内会長さんとの関係も、ある代表から絶たれてしまいましたが、昨年度は新代表が町内の新年会に参加し、以前の関係を修復し始めました。

町内会関連では不寛容な世相の中で何かトラブルがあるとほっとスペース八王子が町内から追い出される羽目に遭いかねません。いままではほっとスペース八王子を理解していただけた大家さんや町内会長さんだったので、防波堤となっただけでしたが、最近マンションが林立し、若い人たちが多く町内に入居されています。そういう方々が追い出そうと画策されることのないように町内会との関係もしっかりと結んでいく必要があります。

町内会館清掃、町内清掃、秋の銀杏清掃などへの参加、町内旅行の参加、八王子祭り、新年会への参加等町内の行事への参加は極めて重要です。町内会理事会への参加も復活させていきたいと思います。

### 【他団体との連携・共闘】

- ・さんきゅうハウスや、京都・前進友の会との交流を図っていこう。
- ・患者会交流会、松沢病院見学会、ハンセン病資料館見学会、精神医療国家賠償請求訴訟、医療観察法反対集会に参加していこう。

昨年度はさんきゅうハウスさんとの交流は一部ではあったかと思いますが、ほっとスペース八王子全体では進んでいなかったように思います。コロナ禍、関係者の一部とのトラブルなどいろいろ要因はあります。しかし、地域でのほっとスペース八王子の活動を保証する、そして仲間と結びつための交流が少しづつではあるが、でき始めたと思います。医療観察法全国集会、武蔵病院を考える会、精神国賠訴訟傍聴行動、上井草希望の会、SNSを通して藤井さんの尽力で松沢病院資料館見学会、ハンセン病資料館見学会あるいは高尾山登山を通して地域の仲間そして精神保健福祉関係者との結びつきが作られ始めています。

患者会が再開され、地域の仲間との交流の窓口も開設された。この窓口を生かして、相談窓口、交流の場としていきたいと考えています。

全国的規模での患者会交流は昨年度のコロナ禍で難しく催されず、また前進友の会との関係も意思の疎通が取れず、切断されたままです。今後もこの取り組みからの全国規模の交流、情報交換を進めたいと思います。

### 【投票行動を通しての政治意識の向上】

- ・今年度実施される東京都議会選挙や国政選挙に当たって、ほっとスペース八王子として、公開質問状を作成、

送付し、障害者の権利擁護をかちとっていこう。

昨年度は衆議院選挙で社会民主党の朝倉れい子さんを応援し、公開質問状を送付して投票行動前に各政党、各候補者の回答を参考にして学習会を催し、投票行動に結び付けました。参加者が少なかったのが残念でした。

平和憲法を変えようとする動きが強まる中で平和を守り、軍事で物事を決めようとする動きを封じて、話し合いで解決する政府の下で私たち精神病者が安心して生活できるように協力し合うのは重要な課題です。ウクライナ情勢をマスコミは煽り立て、それを口実に現政府は軍事力を強め、平和憲法をないがしろにしようとしています。

そういう動きに惑わされず、平和を守り抜く市民運動、平和運動と結びついて生活するべく活動したいと思えます。

### 【平和活動】

上記にも述べたように平和が現政府によって壊されそうになっています。平和憲法をあくまで守り抜き、二度と歴史の過ちを政府が犯さないように皆さんで協力し合っていきたいと思えます。

歴史的な過ちを犯した過去の日本政府の問題を学ぶ必要もあります。そのためにはヒロシマ・ナガサキへの研修旅行、韓国への研修旅行もコロナが収まれば再開したいと思えます。

ヒロシマ・ナガサキ、韓国・アジアへの研修旅行が難しい場合は、昨年度のように東松山の丸木美術館の観覧をはじめ、各地平和資料館へ足を運び学習を重ねること、平和集会などへの参加も必要だと思えます。反戦・反核運動を広め、戦争反対、核拡散防止にみんなの力を合わせていきましょう。

### 【工賃作業】

- ・ 請けた仕事はみんなで責任を持って遂行しよう
- ・ 頑張る人が報われる、頑張った人が納得できる工賃の分配を目指そう。ニュース工賃アップのため、ほっとニュース販売に力を入れていこう。
- ・ 誰かに負担がかからないように、みんなでカバーしあって仕事していこう。

昨年度までは障害者総合支援法の生産活動についての認識が弱かったこともあります。今年度は法を順守する立場から、厳しく生産活動による会計処理を行います。そのことで多少工賃が少なくなることにはなりますが、みんなで少しでも工賃が増えるように頑張りましょう。

工賃作業行うにあたって、足に不具合がある方、工賃作業はやりたい気持ちはあるのだけれど病で体調が悪く出席できないという会員さんも何名かいらっしゃいました。そのような会員さんのフォローもみんなでやり、頑張っていていきたいと思えます。

そして、今後の課題としては、工賃作業が現行の運用によって引き続き国保連の給付額が 2016 年当時の給付金は月 1,200,000 万円程度でしたが、今は減額され月 1,000,000 万円以下になっています。この状態を良しとするか否かは重要な論点と考えられます。

**(堀部) この総括は工賃作業中心の事業所にするか否かの議論となります。減算されても、会員数が多ければ運営が安定化してきた当初と同等の給付額が可能な時期もありました。運営が杜撰となり、会員数も減少することでその額が激減しているのです。**

**中長期計画では現行のほっとスペース八王子にプラスして、工賃作業を主にする事業所の立ち上げも掲げられています。その項を参考にしてください。**

### 【会員さんの健康問題】

昨年度はできませんでしたが、会員さんの健康を守るため、以前のように健康診断を行う必要があるのではな

いかということを感じました。

何故ならば、栄養のバランスが悪い食事、喫煙などで体調を崩す方が多かったからです。

健診を受けることによって自身の健康を把握し、自身の生活を見つめ直すきっかけにもらい、健やかな生活を送ってもらうために今年度は是非とも実施したいと思っています。